

「英訳マンガから見る英語表現の一考察：『魔道具師ダリヤはうつむかない』を事例にして」(第72号、令和8年7月)、1-28頁

「プロローグ」「1 『魔導具師ダリヤは俯かない』」「2 『魔導具師ダリヤは俯かない』と Magic Artisan Dahlia Wilts No More」「3 ダリヤの幼児期時代」「エピローグ」の順で英語表現について取り上げた。「エピローグ」では「この作品では魔導具師として「もの造り」に励む者の気概が表現されている。職人の精神が描かれていると言ってもよいだろう。ダリヤの幼少期を描いた第0話は、父娘の会話から成り立つ部分が多いが、異世界ものとして意識すれば、職業として魔導具師“magic artisan”、魔導師“mage”、錬金術師“alchemist”を分けていることも注目に値する。現代社会のように仕事が分業制、専門性に特化したものになっていることも注目に値する。今回は第0話を取り上げたが、ダリヤはトビアスを婚約するものの、その後、トビアスから婚約破棄を申し出られ、さらに父が亡くなるなど、ダリヤには大きな試練が続く。それでも「うつむかず」、ひとりの女性として前向きに生きるダリヤの人生が描かれることになる。」として結んだ。(A5)